

自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

グループ(学校)名 岐阜市立岐阜特別支援学校

テーマ 小中高の支援と職員を繋ぐ校内研修
～個と組織のニーズに応じた学びと場づくり～

取組のポイント・成果

①令和6年12月18日(水) 15:20～16:50

オンライン講演会「学校における働き方改革～何のために、何から、どのように取り組むか～」

講師：信州大学 教職支援センター 准教授 荒井英治郎氏

いかに私たちが意識できていない思考の癖に囚われているかという気付きから始まり、働き方改革は、生き方改革であり、あり方改革でもあるということを教えていただいた。小グループでの対話を通して、自分や学校組織としての働き方について考えることができた。以下は職員の感想である。

「退勤時間を早めるために、チーム内でコミュニケーションを取ることが大事だということが意外だった。ただ黙々と業務をこなすのではなく、チームでゴールや過程を共有することで、結果的に業務が早く終わることに納得した。」

「働き方改革は一人ではなかなか実行に移せない場面もありますが、学校全体で見直し、考える機会があると、個々の意識も高まっていけると思いました。」

②令和7年1月23日(木) 15:50～16:50

講演及びワークショップ「「アンクルンを活用した特別支援教育の可能性について」

講師：岐阜大学教育学部 特別支援教育講座 助教 鈴木 祥隆 氏

オンラインで海外と繋ぎ、インドネシア教育大学の先生からのご挨拶でスタートした。全職員が実際に演奏したり、鈴木先生のアンクルンを活用したご実践を聞いたりしながら、障がいがある子ども達がアンクルンを通して音楽を楽しむ可能性を体感することができた。アンクルンを持ち、ハンドベルの演奏のようにドレミファソラシドを奏でながら曲を演奏した。以下は職員の感想である。

「竹でできたアンクルンの音色は、タンブリンやカスタネットなどの打楽器よりも耳に優しく、音に敏感な子ども達にとって演奏したり聴いたりしやすいのではないかと思った。」

「ハンドサイン以外の方法さえ考えれば簡単にできそうだし、ずっと鳴らしている子がいても音が馴染むように思った。」



12/14 働き方改革

1/23 アンクルン活用

今後の課題

研修を行った後、職員の感想をまとめて研修通信としてシェアしたが、気付きや学びを授業にどう生かしていくかが課題である。自校評価をもとにした次年度の方向性の具体的な内容の中に取り入れていきたい。また、各支援部が主催する以外の校内研修、「明日への一歩」は今年度初めての取り組みであった。こちらについても職員アンケートをもとに、学校のニーズにあったテーマで、参加したい、学びたいと思えるようなよりよい形態を考えていきたい。